

中国駐長崎元領事の李氏 長崎短大が客員教授に 瀋陽との交流促進図る

長崎短大(佐世保市椎木町)は15日、客員教授として迎える中国駐長崎総領事館元領事の李承志(47)と話をした。



長崎短大の安部恵美子学長から客員教授の委嘱状を受ける李承志氏(右)

氏に委嘱状を渡した。李氏は2004年、08年まで領事を務め、現在は中国政府の外郭団体「瀋陽市人民対外友好協会」の国際部長。昨年5月、佐世保市と瀋陽市が結んだ友好交流都市で橋渡し役を担ったこともあり、短大側が客員教授の就任を要請していた。任期は4月1日から1年。李氏は今後、公開講座の講師を務めるほか、同短大が3月に瀋陽市で予定する一般市民との茶道交流も前倒しで支援する。李氏は「とても光栄。民間レベルでの交流が深まるよう努力していきたい」と話した。

長崎短大客員教授 中国・瀋陽市の李氏任命 民間レベルで交流促進



安部学長(右)から委嘱状を受け取る李氏
=佐世保市、九州文化学園本部

佐世保市椎木町の長崎短大(安部恵美子学長、420人)は中国駐長崎総領事館元領事で、遼寧省人民対外友好協会国際交流部長の李承志氏(47)を同短大の客員教授に任命した。15日、同短大を運営する佐世保市ハウステンボス町の九州文化学園本部で、安部学長が李氏に委嘱状を手渡した。李氏は昨年5月の同市と遼寧省瀋陽市との友好交流都市協定締結にも尽力。両市の民間レベルでの交流を促進しようと、同短大初の客員教授に任命された。李氏は瀋陽市で交換留学や教授間の学術交流などのパイプ役を務め、同短大での講演会なども予定している。委嘱状を受けた李氏は「とても光栄に思う。市民

レベルの文化、学術交流に力を入れたい」と語った。瀋陽市では日本留学を希望する高校生、学生が多く、九州文化学園は今後、李氏らと連携し、運営する長崎国際大と同市立瀋陽大の両方の学位が取れる制度や、同短大に入学した中国人留学生が長崎国際大に編入できる仕組みづくりなども目指すとしている。

(石田慶介)